

## 混沌の時代を生きる若者にこそ職業奉仕の精神を！

中学生や高校生のインターンシップや職場体験、大学生の職場訪問などの機会に、私は1時間ほどお時間をいただき、学生の皆さんに向けて「働くこと」という題目で話をしています。

最初に、学生たちに質問をします。「将来、働くことについて楽しみだと感じる人？それとも不安だと感じる人？」この質問に対する答えのほとんどは、後者の「不安を感じる人」です。時代が非常に混沌としていることも影響しているでしょうし、親や先生方といった周囲の大人の言葉にも影響を受けているのかもしれませんが、「これからの厳しい時代を働いていかなければならないんだよ」、そんな声が聞こえてきそうです。

ここからが「働くこと」の本題です。まさに「職業奉仕」の話になります。若者たちにいくつかの職業について、その仕事の内容が社会にどのように貢献しているのかを、一緒に考えながら進めていきます。たとえば、「歯医者さんはどのように社会に貢献しているのでしょうか？」と問いかけます。学生たちからは、「虫歯を治してくれて、食事を美味しく食べられるようになります」、「歯並びを整えて、虫歯になりにくくしてくれます」といった答えが返ってきます。

そこで私は、こう続けます。「もし私が、お金儲けだけを考える歯医者さんだったら、小学生にたくさん飴玉を配った方がいいよね？でも実際の歯医者さんは、学校に行って歯磨きの指導をしています。どうしてだと思いますか？」。学生たちの頭がぐるぐる回る瞬間です。生活のために働かなければならない。けれど、仕事＝お金を儲けることではない。働くことで社会の役に立ち、その結果として報酬が得られる。仕事の本質を考える瞬間です。

その感覚を少しずつつかみ始めたところで、ほかの職業についても議論を広げていきます。本屋さん、お菓子屋さん、プロ野球選手、役場の職員、学校の先生、自動車部品工場で働く人・・・。

自分の興味や憧れを持って就職や進学を目指す学生もいれば、仕事に対して漠然とした不安を抱えている学生も少なくありません。しかし、さまざまな職業を通して、「働くことの向こう側にある社会とのつながり」を感じることで、その不安が次第に希望へと変わっていくのです。

その次に、学生さんには3人の大工さんの話をします。学校の建設現場で壁を作っている3人の大工さんに「何を作っているのか」と尋ねると、一人目は「壁を作っているんだよ」、二人目は「丈夫な壁を作って、学校を建てているんだよ」、三人目は「学校で元気に学ぶ子どもたちの笑顔を作っているんだよ」と答えました。

人生を豊かにする工夫は、自分の心がけや、何を見ているかによって変わってきます。未来が不透明な今だからこそ、「働かなければならない」ではなく、「働くことで人生を豊かにすることができる」、まさに三人目の大工さんの考え方が、今の若者に最も必要なのではないかと感じています。